

授業例①

税を窓口に、政治を身近なものに

学校の図書室の本の総額を調べよう！

まず、学校の図書室から1冊の本を持ってきて、値段を提示します。
次に、「図書室にある本は、全部でいくらぐらいになるのかな？」と問いかけます。
実際に図書室に行って調べ、本の量から総額の大きさを実感させることが大切です。



どのようにしたら本の総額を簡単に調べることができるかな？

一つの棚の本の値段 × 棚の数 = 図書室の本の総額

◆図書室の本の総額は、おおよその値段でよい。

◆児童の興味・関心を高めるために、身近な具体例などを取り上げる。

◆税の学習資料は、次時に配る。

そして、本代がこんなにかかっているのに、図書室の本を無料で借りることができることを確認し、次の学習課題を作ります。

図書室では無料で本を借りることができるのはどうして？

小学生の勉強のために無料で寄付してもらっているんじゃないかな？

学校が、勉強のために買っているんじゃないの？

校長先生や教頭先生に聞いてみようよ！



授業例②

税金は学校でどんなことに使われているの？

前時の学習課題を解決するために、児童が調べてきたことをまとめたり、直接校長先生に話をしてもらう中で、図書室の本に税金が使われていることを確認します。

そして、新たな情報として「小学生一人のために1年間で使われる税金はおおよそ114万円」であることを教え、新たに「税金は学校でどんなことに使われているのか」という学習課題を作ります。

増刷用資料

小学生一人のために1年間で
おおよそ114万円



どうしたら調べることができるかな？



市・町・村のシールがついている物があるよ！



◆税の学習資料P1～3を調べること
で、図書室の本以外にも税金が使われていることを確認することができる。

◆学校の所有物であることを確認できる表示、例えば「(市町村)備品整理票」が付いている物などを調べることで、市町村の税金がどのような物に使われているかを確認することができる。

◆教材の値段を提示する。

